

令和5年1月18日

千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 ト マト	うどんこ病	やや多	1月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病初期から薬剤防除する。</li> <li>発病葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。</li> </ul>
	オンシツコ ナジラミ	並	1月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>黄色粘着トラップの設置等で発生を的確に把握し、発生初期から薬剤防除する。</li> </ul>
	タバココナ ジラミ	並	1月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>タバココナジラミは、黄化葉巻病を媒介する。黄化葉巻病発病株は抜き取り、適切に処分する。</li> <li>施設内外の除草等で耕種的防除に努める。</li> <li>令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照。</li> </ul>
冬 春 キ ュ ウ リ	うどんこ病	やや少	1月上旬発生量：やや少(-) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病初期から薬剤防除する。</li> <li>窒素肥料の多追肥を避ける。</li> </ul>
	褐斑病	並	1月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>除去した被害葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。</li> <li>発病初期から薬剤防除する。</li> </ul>
	べと病	並	1月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>下方の病葉は摘み取り、施設外へ持ち出し適切に処分する。</li> <li>発病初期から薬剤防除する。</li> </ul>
	菌核病	並	1月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病果や発病葉は速やかに施設外へ持ち出し、適切に処分する。</li> <li>令和2年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。</li> </ul>

作物名	病虫害名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
キャベツ	菌核病	並	1月上旬発生量 冬キャベツ：並 [発生なし] 春キャベツ：並 [発生なし] 気象予報：気温高 (+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病株は速やかに抜き取り、ほ場外へ持ち出し、適切に処分する。</li> <li>薬剤防除は、株元まで薬剤が到達するように、ていねいに行う。</li> <li>令和2年度病虫害発生予報第8号P5「これから注意を要する病虫害」も参照。</li> </ul>
	腐敗病	並	1月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：気温高 (-) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病株は速やかに抜き取り、ほ場外へ持ち出し、適切に処分する。</li> <li>トンネル内が多湿にならないよう、換気に努める。</li> <li>菌核病は、令和2年度病虫害発生予報第8号P5「これから注意を要する病虫害」も参照。</li> </ul>
イチゴ	うどんこ病	やや少	1月上旬発生量：やや少 (-) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病初期から薬剤防除する。</li> <li>発病葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。</li> </ul>
	アザミウマ類	やや多	1月上旬発生量：やや多 (+) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。</li> <li>同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>令和2年度病虫害発生予報第7号P5「これから注意を要する病虫害」も参照。</li> </ul>
	ハダニ類	少	1月上旬発生量：少 (-) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。</li> <li>同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>葉裏に薬剤が十分付着するようていねいに散布する。</li> <li>令和2年度病虫害発生予報第6号P4「これから注意を要する病虫害」も参照。</li> </ul>

作物名	病虫害名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
施設野菜共通	灰色かび病	並	1月上旬発生量 冬春トマト：並〔発生なし〕 冬春キュウリ： 並〔発生なし〕 イチゴ：並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。</li> <li>発病葉、発病果は施設外へ持ち出し、適切に処分する。</li> <li>令和3年度病虫害発生予報第8号P5「これから注意を要する病虫害」も参照。</li> </ul>
カーネーション	立枯病	やや多	12月下旬発生量：やや多（+） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病株は速やかに抜き取り、施設外に持ち出し、適切に処分する。</li> </ul>
	アザミウマ類	並	12月下旬発生量：並 12月黄色粘着トラップ誘殺数： 並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。</li> </ul>
	ハダニ類	やや少	12月下旬発生量：やや少（-） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。</li> </ul>
ストック	菌核病	並	12月下旬発生量 施設ストック：並〔発生なし〕 露地ストック：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（+） 日照時間並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。</li> <li>施設栽培では過湿にならないよう注意する。</li> <li>令和2年度病虫害発生予報第8号P5「これから注意を要する病虫害」も参照。</li> </ul>
野菜・花き共通	コナガ	やや少	12月下旬発生量 施設ストック：並 露地ストック：やや少（-） 1月上旬発生量 冬キャベツ：並 春キャベツ：やや少（-） 12月フェロモントラップ誘殺数： やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。</li> <li>同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>

## II これから注意を要する病害虫

### 春に向けてヒョウタンゾウムシ類に注意

ヒョウタンゾウムシ類（トビイロヒョウタンゾウムシ・サビヒョウタンゾウムシ）は広食性で、多くの種類の作物を加害する。幼虫により地下部が加害され、ラッカセイやニンジン、ネギなどで特に被害が大きい（写真1）。成虫は地上部を食害し、ラッカセイでは成虫の加害により葉に左右対称の特徴的な食害痕を生じる（写真2）。

病害虫防除課では、千葉・印旛・君津地域の10地点で、7月上旬から9月上旬に月1回、ラッカセイの病害虫調査を実施している。この調査において、ヒョウタンゾウムシ類の被害株率（※）の平均値は、2022年の7月、8月は平年を上回り、9月は平年並となった（図）。しかし、被害株率の高いほ場もみられた。

（※）ラッカセイの地上部のみを調査し、葉に左右対称の食害痕が認められた株を「被害株」として計上している。

ラッカセイの栽培期間中に写真2のような左右対称の食害痕が認められたほ場などでは、ヒョウタンゾウムシ類が越冬している可能性があるため、次作は注意が必要である。



写真1 ヒョウタンゾウムシ類に被害されたラッカセイの莢

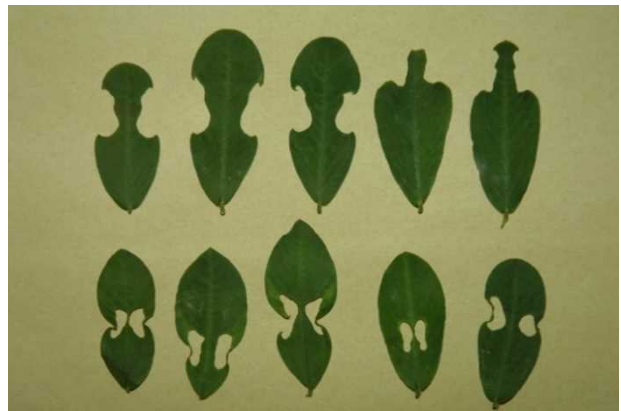


写真2 ヒョウタンゾウムシ類に加害されたラッカセイの葉

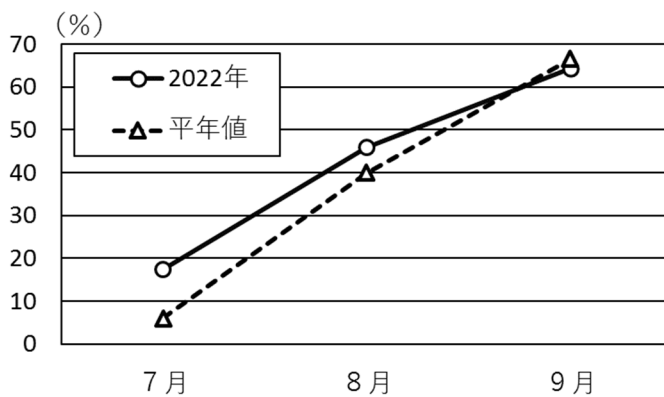


図 ヒョウタンゾウムシ類によるラッカセイの被害株率の推移



写真3 サビヒョウタンゾウムシの成虫

写真1～3は、千葉県農林総合研究センター病害虫防除課原図

### 〈形態と生態〉

いずれのヒョウタンゾウムシも成虫の体長は6～9mm、体色は黒褐色から灰褐色で、背部から見た形状はヒョウタン型をしている（写真3）。幼虫は10mm程度まで成長し、体色は乳白色から黄白色で頭部は褐色であり、脚がないのが特徴である。

成虫は地表面および土中で、幼虫は土中で越冬する。越冬成虫は4月中旬頃から活動を開始するが、トンネル栽培等ではそれよりも早い時期から活動を開始することもある。

地表面などに産卵し、ふ化した幼虫は地下に潜って食害する。成長すると地中で蛹化し、羽化する。春に成虫が出現後、比較的早い時期に産卵された次世代個体は成虫で越冬し、やや遅い時期に産卵された個体は幼虫で越冬すると考えられる。なお、春先に地下部を加害するのは越冬幼虫である。

成虫は飛翔できず、歩行により移動する。

#### <防除法>

##### 1 耕種的・物理的防除

- (1) 前年に被害が発生したほ場で、幼虫が越冬していると考えられる場合、6月上旬まで無作付けで管理する。このことにより、幼虫は餌を得られず餓死するため、防除効果が期待できる。この場合、餌となる根などを幼虫に与えないよう、(2)の対策も同時に実施する。
- (2) 広食性であり、雑草は生息場所や越冬場所にもなると考えられるため、ほ場内外の除草に努める。

##### 2 化学的防除

以下の表を参考に薬剤防除する。

農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

表1 ラッカセイでヒョウタンゾウムシ類に登録がある主な防除薬剤  
(農薬の登録内容は令和5年1月11日現在)

薬剤名	IRACコード※1	使用量	使用時期	本剤の使用回数※2	使用方法
トクチオン細粒剤F	1B	9kg/10a	生育期(但し、収穫60日前まで)	2回以内	土壌表面散布 後土壌混和

表2 ニンジンでヒョウタンゾウムシ類に登録がある主な防除薬剤  
(農薬の登録内容は令和5年1月11日現在)

薬剤名	IRACコード※1	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数※2	使用方法
アクセルフロアブル	22B	1,000	収穫前日まで	3回以内	散布
コテツフロアブル	13	2,000	収穫前日まで	2回以内	散布

表3 ネギでヒョウタンゾウムシ類に登録がある主な防除薬剤  
(農薬の登録内容は令和5年1月11日現在)

薬剤名	IRACコード※1	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数※2	使用方法
コテツフロアブル	13	2,000	収穫7日前まで	2回以内	散布

※1 IRACコード：殺虫剤の作用の仕組みの分類を表すものである。害虫の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤を連用しない。

※2 名称が異なる薬剤でも、同じ有効成分が含まれることがある。そのため、製品ラベル等を十分に確認し、含有する有効成分の種類ごとの総使用回数も使用基準を超えないようにすること。

## 参考資料

### ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（野菜：1月上旬、花き：12月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
冬春トマト (海匠、長生)	萎凋症	萎凋株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率 (%)	2.80	1.52	1.60	
	疫病	発病株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.12	0.40	
	〃	果実発病度	0.00	0.01	0.00	
	葉かび病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.13	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病葉率 (%)	0.80	11.40	6.00	
	褐斑病	発病葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病	果実発病度	0.00	0.23	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	1.03	0.80	
	〃	果実発病度	0.00	0.40	0.00	
	べと病	発病葉率 (%)	9.60	12.92	22.60	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	1.60	1.54	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	1.40	0.80	
冬キャベツ (海匠)	アザミウマ類	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.53	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.76	0.00	
	黒腐病	発病度	0.80	1.99	0.60	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	1.60	0.64	0.00	
春キャベツ (海匠)	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.08	0.28	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	黒腐病	発病度	0.00	0.07	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	2.40	0.70	0.00	
冬レタス (安房、君津)	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.14	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.27	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	1.39	1.60	
	腐敗病	発病株率 (%)	0.00	0.34	0.00	
イチゴ (海匠、山武、安房)	べと病	発病株率 (%)	0.00	0.96	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率 (%)	2.82	4.39	0.47	
	〃	発病果率 (%)	0.02	0.28	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.07	0.00	
	〃	発病果率 (%)	0.00	0.01	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	4.00	2.63	0.71	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.02	0.00	
カーネーション (安房)	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.94	0.34	1.65	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	6.12	23.34	10.12	
	萎凋病	発病株率 (%)	0.00	0.40	0.00	
	立枯病	発病株率 (%)	0.80	0.48	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.24	0.80	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	2.13	10.91	0.44	
ストック (安房)	アザミウマ類	被害株率 (%)	4.80	15.56	0.00	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	2.32	2.00	1.78	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	0.00	3.78	0.00	
	菌核病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.72	0.00	
	菌核病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.32	0.00	
	萎凋病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.24	0.00	
	コナガ (施設)	被害株率 (%)	1.00	4.22	2.00	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	0.00	1.52	0.00	
	コナガ (露地)	被害株率 (%)	10.40	18.38	8.80	
〃	幼虫寄生株率 (%)	0.00	4.36	0.80		
アブラムシ類 (施設)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.08	0.00		
アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	5.94	0.00		

トラップ月間誘殺数 (12月)

単位: 頭/日

種類	病害虫名	トラップ設置場所	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠、安房	0.3	0.7	1.0	

## ○気象予報

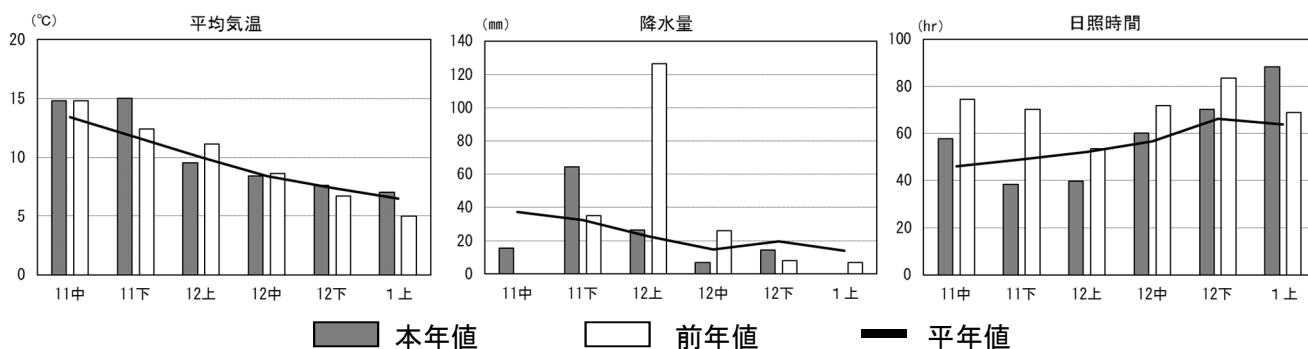
1月12日気象庁発表  
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値  
(1月14日～2月13日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	6.0	6.5	6.4
降水量(mm)	70.2	104.0	80.4
日照時間(hr)	188.0	178.0	172.8



■ 本年値      □ 前年値      — 平年値

過去2か月の気象概況 (アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は3月15日です。なお、注意報等の臨時情報は、逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)

